

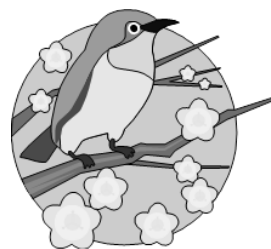
## とある一戸建て団地の空家の雑草問題・千葉市若葉区



昨年から自治会の役員を担当しています。50年程前に林を切り開いた一戸建ての団地で、引っ越してきた当時はまだ空地が多かったですが今はほぼ住宅が建ち並び500戸ほどになりました。JR千葉駅までバスで30分程掛かる不便な地域です。そのような場所なので土地の価格が安く、周辺で働く若い夫婦が建売の住宅を購入しています。また、高齢化が進み、半分以上が75才以上の世帯で、空家が増え続けています。そのような空家に周辺の敷地で農業を営む中国人が本国から若い人を働かせるために呼び、住まわらせてる家が増えています。以前はゴミ処理などでトラブルがあったようですが現在はほぼ解消されています。そのような空家で問題の一つが樹木や雑草の管理がなされない事です。持ち主が分かれば管理依頼の手紙を出して対応を促します。不明な空家については区役所に依頼し、持主を特定し、管理を促す手続きを進めてもらいます。ただ、相続人の登記の変更が行われていない事も多く難儀します。（文、写真：中安 博司）

\* 目次 \*

- 02 目次・企画予定表
- 03 能登半島地震について
- 06 第34回全国大会報告
- 08 支部総会記念講演、総会、忘年会報告
- 09 フィンランドの建築家:アルバ・アールト
- 13 世界まち歩き 35 ローマ郊外中世の町並みオルヴィエート 高山登
- 16 事務局だより



鈴木進、田中和広  
田中和広  
中安博司  
泉ヒロヨシ

\* 企画予定表 \*

月	支部企画	その他企画	全国・他支部企画	その他
3月				14 (木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会
4月			20(土)全国幹事会 Web	11 (木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会
5月				9 (木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会
6月				13 (木) 20:00~ Web 支部幹事会+交流会

【旅の思い出スケッチ No9】

鈴木 進

● 国内編（伊根の舟屋）



海外のスケッチが続いたので、また何回かは国内に戻ることにした。

伊根の舟屋には、ツアーで行ったので時間は限られたが、船上からの舟屋群の見学、舟屋の裏通り、小高い丘からの伊根湾の全景などをとても効率的に見ることができ、ここ特有の風景をたっぷり楽しんできた。伊根の舟屋は、京都府与謝郡伊根町の伊根湾沿いの、この

地区独特の伝統的建造物であり、平成17年に重要伝統的建造物群保存地区として選定されている。「江戸時代末期から昭和初期に建てられた伊根湾沿いに連続して建つ舟屋及び主屋、蔵、寺社などの伝統的建造物を残す漁村であり、青島と伊根湾およびこれらを囲む魚付林などの周辺の環境と一体となって歴史的風致を今日に良く伝えている（伊根町HPより）」

## 能登半島地震のこと

鈴木 進

新年早々、大きな揺れを感じた後、テレビからは能登半島の大変な被害状況が映し出された。

地震発生後すでに2か月たったが、241人の方がお亡くなりになり、未だに15人の方が行方不明になっている。そして2万人以上の方が、今でも、避難所、県外の親戚等、車中泊、自宅などでの厳しい避難生活を送られている。被災した方々には心よりお見舞するとともに、亡くなった方のご冥福をお祈りしたい。

今回の地震では、木造住宅の多くが倒壊や半壊した。耐震補強した住宅の倒壊もあったようである。

亡くなった方の9割近くが家屋倒壊死と報道されている。また道路の寸断により被災地へのアクセスが困難な状況が生じ、救援にも大きな遅れが生じ、極寒の中での被災者の方々の避難生活は過酷な環境の中で行われてきている。感染症や関連死も大きな問題になっている。ライフラインの水道、下水道、電気の復旧が遅れていることが、過酷な避難生活をさらに厳しくしている。ライフラインの復旧、地域のコミュニティを大切に安定的な居住環境が整えられることが急務であるだろう。

仮設住宅も道路寸断、建設用地の問題、建設労働者不足、資材の不足などから建設が遅れている。

私は、地域の避難所運営委員会の委員長として、日常的な活動の中で近い将来発生が予測されている首都圏地震に備えた準備を地域の皆さんと取り組んでいるが、実際に大災害が起こることを考えると、トイレ、水や食料、感染症、避難所の生活環境などについて、不安だらけの状況である。

また建築技術者として、特に住宅をはじめとする建物や家具等の耐震化について、仕事でも関わってきたし、いくつかの地震災害を受けた地域の調査にも行ってきたが、首都圏で震度6強や7の大地震が発生した時、住宅やライフラインに大きな被害が生じる不安が尽きない。

今回の能登半島地震による被害は、現地のことが詳細に把握できない中なので、不正確なこともあると思うが防災対策の大きな問題点がより鮮明になってきている。そしてこの地震被害を踏まえ、これからの私たちの災害対策を改めて整理していきたいと思う。更に、建築技術者として災害対策に何ができるか、発災後の対応で何ができるか等々を整理しなければならないと思う。

我が家や居住地域のこと、更に避難所のことなど、対応しなくてはならないことはたくさんあるが、十分な対応ができないままに時間が過ぎてしまっている。様々な資料からの情報、地域や避難所運営委員会の活動等から得たことなどから、これからの首都圏の大地震に備えて、各家庭で以下のようなことをしっかり取り組んでおくことが必要だと思う。東方沖での地震の頻発も不安な状況である。町内会のニュースなどで、改めて地域の皆さんへの広報などにも取り組んでいきたい。

- 家の中を整理して、落下や倒れる危険性のあるものを片付ける、家具の固定や寝室や居間などから倉庫など日ごろ使わない場所に移動するなどの対応はすぐにできることである。
- 市町村の制度(補助金)を利用して、耐震性を調査し、耐震性能が不足している時は速やかに耐震補強をする。
- 被災後、すぐには水や食料は支給されない。10日分くらいを目安に保管する。水は飲料水だけではなく生活用水も貯える(風呂の水や賞味期限の切れた飲料水の一定程度の保管等)
- 最低限の貴重品や必要な薬などをすぐに持ち出せるようにしておく(何種類もの緊急時に役に立つグッズがリックにセットされたものもある。概ね5,000~1万円程度)。
- カセット用発電機(スマホ充電も可能なもの、5~10万円)や卓上コンロも用意しておくが良い。
- 断水や下水道が使えなくなると水洗トイレが使えない。携帯トイレを用意しておきたい
- 通電火災に備え感震ブレーカーを設置する(3,000~1万円程度。市町村の補助制度もある)

## 田中和広

輪島市黒島地区伝統的建造物群保存地区は、2009年6月30日に選定  
天領：黒島の（北前船の拠点）繁栄がベース。北前船の廻船問屋「重要文化財旧角海家住宅」  
廻船問屋とは、北前船を対象として海運業を行った問屋。旧・角海家（かどみけ）は廻船問屋。  
角海家は1843年（天保14年）に、中屋藤五郎家の船頭であった、角屋孫左衛門が独立し創業。  
幕末の全盛期に、7艘もの北前船を所有し、黒島でも屈指の廻船問屋。



倒壊前の写真（出典：のとルネ <https://noto-renaissance.net/kyuukadomike>）

### 1. 選定までの経緯

- ①2006年能登半島地震（M6.9）
- ②2007年黒島地区まちづくり協議会発足、黒島地区伝統的建造物群保存対策調査委員会開催
- ③2008調査開始、「輪島市伝統的建造物群保存地区保存条例」制定

### 2. 選定後の経緯

- ①2010年修理・修景事業開始。旧角海家住宅の復原工事開始。
- ②2011年工事完了し公開開始。

「黒島地区まちづくり協議会」が「黒島地区まちなみ保存会」に改称し、旧角海家住宅の管理運営を行う。

黒島地区の建物は「黒瓦」「格子」「下見板張り」という共通要素で統一感があり、美しい町並みで観光客が多数訪れる。



(出典：のとルネ <https://noto-renaissance.net/kyuukadomike>)



## 【第34回全国大会 Web参加報告】

田中 和広

参加者：加瀬澤、鈴木(午前中)、泉(代議員)、田中(代議員)

2023年11月25日10時～17時にオンラインにて、第34回全国大会が開催されましたので、概要を報告いたします。(順不動)

### ①＜役員改選＞

役員改選は、代議員投票による選挙が行われて承認されました。千葉支部からは、中安氏が全国幹事会役員に選出されました。

### ②＜大会議案＞

全体会にて午前中約2時間にわたる審議・質疑応答が行われ、参加された多くの会員から文案の一部について、多様な修正発言があり事務局を中心に審議が行われました。

その多くは、社会全体に公表される議案について、誤解をまねかないように表現を改めるものです。修正後の議案は、全国Webサイトや、建まち誌に改めて記載される予定です。(この記事が出版されるころには、すでに記載済かもしれません。)

### ③＜特別決議＞

次頁に記載している、2つの特別決議が上程され、代議員投票の結果、賛成多数により採択されました。

### ④＜分科会＞ 私の参加した分科会での報告です。

奈良支部の会員が司会を務められ、北海道・近畿・中部・北信越地区会員と、昨今の課題や情報について、主に以下の話がありました。

- ・省エネ義務化について：支部単位で勉強会を開催している。北海道支部における事例報告は、分科会報告で発表されました。尚会員数の少ない支部では、知識集約が進んでいない状況です。
- ・人材・資材等の不足について：原材料や人件費の高騰、世情等により、人材・資材ともに調達に苦慮している。その結果、工期延長を余儀なくされたり、利益を圧迫する事例が増えてきている様子です。
- ・千葉支部では、千葉塾の開催など多様なイベントを行い、新規会員獲得努力をおこなっています。

○他の分科会の報告は、全国Webサイトや、建まち誌を参照願います。

議決された、2つの特別決議は以下のとおりです。

2023年11月25日に行われた新建築家技術者集団・第34回全国大会において、「ガザ地区での即時停戦と人道支援を求めます」「大阪・関西万博の中止を求めます」2つの特別決議を採択しました。

特別決議

## ガザ地区での即時停戦と人道支援を求めます

私たちは、ガザ地区での人道的大惨事の中、これ以上の民間人の犠牲を防ぎ、人びとの命を救う支援を可能にするために、占領下のガザ地区とイスラエルのすべての紛争当事者による即時停戦と人道支援を緊急に要請します。

10月7日のイスラム組織ハマスによるイスラエル襲撃に端を発するとはいえ、イスラエルの報復攻撃によるガザでの死者は1万3千人を超え、その多くが子供と言われています。またイスラエルは医療施設や学校、国連施設にも攻撃を行い、多くの患者や医療従事者、国連職員の犠牲者も急増しています。

住まいのみならず食料や水、電気、医薬品も遮断されジェノサイドともいべき事態が進んでいます。ガザに暮らしている2百万人超の人びとに深刻な人道危機が訪れています。

この状況に対し、私たちは以下のことを求めます。

- ①イスラエルは今すぐ攻撃を止め、両者は即時停戦すること。
- ②ハマスをすべての武装組織はすべての人質を即時に解放すること。
- ③イスラエルは拘束するすべてのパレスチナ人を解放すること。
- ④国際社会はガザの人びとへ食糧、水、電気、医薬品・医療を届けること。
- ⑤国際社会は、ガザでの惨状を止めさせるためにあらゆる努力を行うこと。

また、長年にわたるガザへの一切の抑圧を止め、ガザの人びとに自由で安全な生活を保障すること。

以上決議します。

2023年11月25日 新建築家技術者集団 第34回全国大会

特別決議

## 大阪・関西万博の中止を求めます

2025年に予定されている大阪・関西万博について、11月初旬に共同通信が実施した世論調査では、同万博の開催が「不要だ」という回答が68.6%と、多くの国民が反対していることが明らかになりました。また、参加予定国の撤退も報道され、開催を疑問視する声が増しに大きくなっています。

私たちは建築まちづくりの専門家として以下の点で大きな問題があると考え、大阪・関西万博の中止を求めます。

1. 会場予定地の人工島夢洲は浚渫土やゴミの最終処分場であり、軟弱であることはもとより地震時の液状化の危険性や有害物質が大量に埋め立てられているなど、建築物の敷地としては全く不適切です。
2. 2018年の台風21号では関西空港および同連絡橋の被害をはじめとして、会場予定の夢洲でも高潮による岸壁の崩壊が報告されています。近年多発する超大型台風による甚大な被害が予想される場所に、多くの人が集まる大規模イベントを開催すべきではありません。
3. 開催予定日まで1年半を切っていますが、建設工事はほとんど進んでいません。電気や上下水道などのインフラも未整備で現地に至るアクセスの問題を含めて、現時点では工事を進捗させるための見通しがありません。工事期間不足の事態を受けて、2024年から建設業にも適用される時間外労働・休日労働の禁止規定を除外すべきなどという無責任な意見が一部で挙がっています。このまま強行すると突貫工事による事故の多発や過労死の発生も予想され、このような建設労働者を危険にさらす工事の強行に反対します。
4. 会場建設に係る費用が当初予算の約1.9倍2350億円と言われており、今後も地盤改良やアクセス整備などの費用の増大が想像されます。そもそも半年間の仮設建築物のために膨大な地盤改良や終了後に引き抜くとされている長大な基礎杭工事はあまりにも無駄であり、持続可能性の観点からは正反対の事業です。短期間の大規模イベントに巨額の税金を空費してしまうのではなく、国民市民のくらしのために投じるべきと考えます。

過去には東京での世界都市博覧会中止や先般の札幌五輪招致断念など、中止することが賢明であった事例はあり、中止による補償金も含めて早期の決断により損失の最小化を図るべく一刻も早い中止の決断が望まれます。

以上のことから、私たちは、持続可能な安定した社会づくりに反し、多くの国民が不要と考える危険で無駄な大阪・関西万博の即時の中止を求めます。

以上決議します。

2023年11月25日 新建築家技術者集団 第34回全国大会

## 新建千葉支部 記念講演・総会・忘年会 報告

昨年 12 月 9 日 (土) 13:00~16:50 アトリエ結にて支部総会、忘年会を行いました。

昨年は長年一緒に活動してきた鎌田、長房氏が亡くなり残念です。

総会の記念講演は関連する本を出版された佐藤美弥氏 (名古屋市立大学) に「創宇社建築会 100 周年を迎えるにあたり」のタイトルでお願いしました。Zoom との同時開催し 13 名 (内 Zoom 3 名) が参加しました。詳しい内容は建まち誌 2024. 2 月 (No. 538) 号に掲載されていますのでご覧ください。

総会は 9 名が参加者しました。

鈴木氏のあいさつの後、中安が議長に選出され議事を進行。昨年の活動報告 (全体 - 中安、住まいづくり研究会 - 中安、事務局・機関紙・全国活動 - 加瀬澤、アトリエ結・竹村文庫・住まいと福祉の会 - 鈴木) から会計報告・次年度予算 - 加瀬澤および次年度方針 - 中安が行われ休憩の後、討論に入りました。

活動について建築関係者として防災問題に取り組む必要があるとの提案がでました。街づくりの問題として松江城そば (商業 80% 500%) の高層マンション計画をあげ、景観法の不備や城側からの視点も必要との意見。住まいづくり研究会は若手が興味を持つ内容で開催する必要があるとの提案がありました。空き家対策については法整備を含め安心して過ごせるような対応が必要との意見がありました。新規会員確保のために支部 HP 充実 (コンテンツの追加検討) させ、住まいと福祉の会の活動や創宇社や竹村文庫の学術的価値を佐藤氏と連携し発信する必要があるとの意見も出ました。

その後、役員改選が了承され、総会が終了しました。

忘年会には元会員の玉川氏が加わり、総会では言い足りない事や各自の様子などで賑わいました。和気あいあいとした様子が千葉支部の特徴であり活動につながっていると朦朧としながら感じました。

..... 会員皆様も活動への参加やご意見をよろしく願いいたします。 (中安) .....

2024 年度役員体制は下記の通りです。今年も皆様のご協力よろしく言お願いいたします。

事務局 長	中安 博司 (留任) (編集担当、全国幹事、全国常任幹事)
事務局 次長	加瀬澤 文芳 (新任) (会計担当、全国幹事)
幹 事	鈴木 進 (留任)
	泉 宏佳 (留任)
	高山 登 (留任)
	久野 敬一郎 (留任)
	金澤 由紀子 (留任)
	田中 和宏 (留任)
	岸田 一輝 (留任)

監 査 宇野 武夫 (留任)

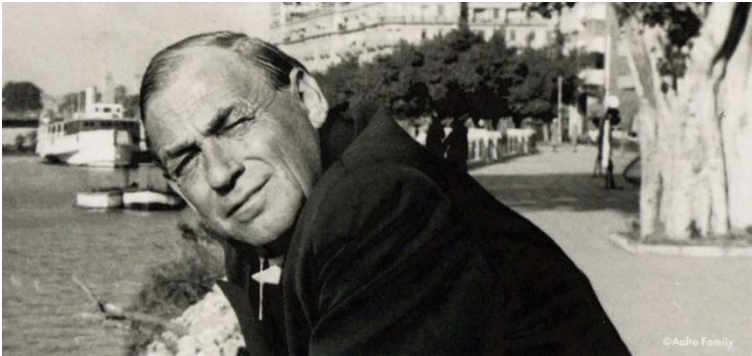




## フィンランドの建築家: アルバ・アールト

先日、新聞を見ていて、映画広告に「アールト」を発見した。あのアールト？と最初は信じがたかったが、キャプションを見ると、まさしくフィンランドの建築家「アルバ・アールト」その人がメインとなる映画。ただ、建築を追う映画ではなく、彼を支えた2人の女性との制作プロセスを追ったドキュメンタリー映画で、隈研吾や伊藤豊雄がコメントを寄せていた。早々に出かけた。JR内房線の蘇我駅で降りて、無料の大型商業施設の巡回バスに乗って、10分。かなり早めに着いたが、待つ間のワクワク感を抑えきれなかった。ただ、場内に入ると、およそ100席ほどの座席に、観客は10数人！拍子抜けしたが、年配者が多かった。映画は期待を裏切らないもので、10数年前にツアーで訪れたフィンランドの森が懐かしく、カタログは映画を観る前には、A-5版と小さくて1000円と高かったので購入しなかったが、観た後には、何でもいから余韻を受け止めるものが欲しくなって、買ってしまった……。そしてアールトの姿を追いかけてながら、書いている

カタログによると、映画を撮ったのは、1967年生まれの女性監督で、長い間、アールトの映画を撮りたいと考えていたそうで、この映画で2020年にザグレブデザイン・アート・映画祭で最優秀作品賞を受賞し、また、21年にはフィンランド・アカデミー賞の音楽賞と編集賞を受賞している。ただ、彼女が9歳の時にアールトは亡くなっているため、この映画は録画資料や建物、室内空間映像などで表現されている。映画はアールトや2人の妻との制作プロセスを追い、アールト建築の暖かさや優しさの秘密を解き明かしていた。



アールト (1898～1976)



アイノ (1894～1949)



エリッサ (1922～1994)

アールトは測量技師の父と郵便局員の母のもとに生まれる。ただ、家族は代々、森林官を務めていたため、樹木に親しみながら育った。1916年ヘルシンキ工科大学に入学。アイノは彼より4歳年上で、3年前に同学部に入学していた。アールトは1921年に大学を卒業後、1923年に25歳で「アルバ・アールト建築事務所」を設立。アイノは24年に、入所、そして半年後に結婚。イタリアに新婚旅行に出かける。アイノは1935年に家具、照明器具、テキスタイルを販売する「アルテック」を創業。ヘルシンキに1号店をオープン。アールトは1943年にフィンランド建築家協会会長に就任。1946年にはアメリカMITの客員教授に就任。またこの年、アイノが「がん」の診断そして手術。48年にイタリア旅行。翌49年、アイノは亡くなる。55歳だった。2人目のパートナー、エリッサは1922年生まれで、アールトとは24歳の年齢差があった。彼女は49年にヘルシンキ工科大学を卒業後、50年に入所。52年にアルバ・アールトと結婚。76年にアルバが亡くなった後もオペラハウスや劇場の設計を完成させつつ、アールト建築の保存、設計図面、デザイン資料などを保存・管理に力を注いだ。



上図： 自宅と

下図： 室内

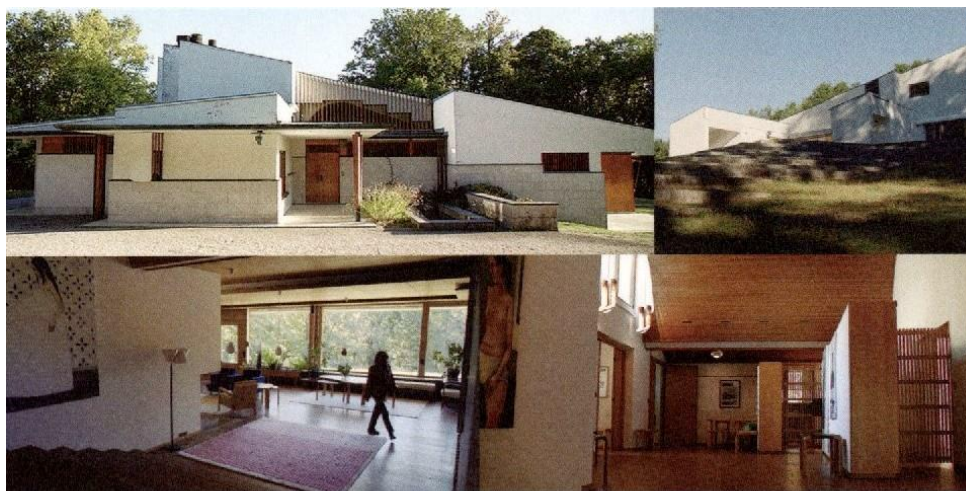
1935年



アールトはRC造の外壁に木板を張った。室内にはアイノ設計の椅子と照明。



アールのアトリエ (スタジオ・アール) 1955年



▲ ルイ・カレ邸



マイレア邸 ; 外壁のツタも成長を見込んだ意匠という。1939年

近代建築の三大巨匠は、R・コルビジェ、F・ロイド・ライト、M・ファン・デル・ローエと相場は決まっているが、こうした巨匠たちとの関係はどうだろうか？ちなみに生年は次のようになる。 \* 「バウハウス」の初代校長のW・グロピウスを入れると四大巨匠

- ・ F・ロイド・ライト ; 1867年～1959年 (満91歳)
- ・ M・ファン・デル・ローエ ; 1886年～1969年 (満83歳)
- ・ R・コルビジェ ; 1887年～1965年 (満77歳)
- ・ アルバ・アールト ; 1898年～1976年 (満78歳)
- \* W・グロピウス ; 1883年～1969年 (満86歳)

ライトが一番年上で、20歳ほど離れてミースとコルビジェ、そしてそこから又10歳遅れてアールトとなる。しかし、ほぼ同時代人と言っていいのではないか？そして1928年に、S・ギデオンやコルビジェの提唱するCIAMが始まっている。アールトはCIAMには1929年に参加しているが、この時、コルビジェ42歳、アールト31歳だった。

コルビジェに会った後、アールトは最先端のモダニズム建築を次々と建て、一躍国際的な建築家となる。しかし数年が経って、1935年、自邸兼事務所を建て、白い外壁の一部に木製の黒壁を張った頃から、変化が生じ、1939年に建てたマイレア邸ではフィンランドの伝統的な草屋根のサウナ小屋を設えた「フィンランド人」に回帰した。世界中どこにでもあるインターナショナル・スタイルから一線を画したフィンランドの建築を目指した。



▲ユヴァスキュラ教育大学



アイノとアールト  
1924年結婚



ガラス製品  
1971年



フィンランディア・ホール  
1971年



エリッサとアールト  
1952年結婚

1951年～1956年

日本人に彼のファンは多いと思われるが、残念なことに日本に彼の設計した建物は無い。

## 美しい断崖絶壁の丘上都市 オルヴィエート

この1年間、新建千葉支部の活動は休止しておりました。また復帰できる環境になりましたので、これまで支部の機関誌「新建ちば」で連載中の“世界まち歩きシリーズ“を継続させていただきます。

今回のご紹介は新型コロナの入国規制が緩和された後の昨年9月、孫親子と企画してローマを中心に訪れた町の一つ、中世の町並みオルヴィエートをご紹介します。

### 中世の町並みオルヴィエート

オルヴィエートは、世界一とも言われる美しい断崖絶壁の丘上都市で、ローマから北に約100kmのフィレンツェに向かう途中のウンブリア州ある。

この台地は、太古の火山活動による大爆発で生まれたという。そのアクセスは難しく、東の鉄道駅からケーブルカーで195mも高い崖の上にある町へと登っていく。

写真①は高さ47mのモーロの塔(注1)より見る町並み。趣のある路地や中世の建造群を一望できる。オルヴィエートは外周よりまるで島のように岸壁の上に高くそびえ建っているため急に町が終わり、その先に緑の自然が広がっているように見える。人々は周囲の世界から切り離されて、歴史や遺跡、独自の文化などを守ってきたのである。



注1) モーロの塔：1200年代の中世のオルヴィエートは最も栄えていた。当時47mのモーロの塔は町の繁栄の象徴

### 美食の街オルヴィエートは、スローシティ発祥の地

オルヴィエートは崖上の町という条件もあり、早さや効率性へのアンチテーゼとして、スローシティ(注2)という新しいコンセプトを掲げて街づくりに取り組んできた。以前から起きていたスローフード運動の成功もあり、スローシティという新しい街づくりコンセプト掲げ、安らぎを求めた美食の街として知られ、観光客を集めるようになっていく。名産品では生ハムやオリーブオイル、トリュフにワインなどがある。写真②はオルヴィエートで一番美味しいといわれるレストラン「ラ・バロンバ」の人気No.1のトリュフ入りカルボナーラ・スパゲッティ。豪快にたっぷりの黒トリュフをテーブルで削ってく

れたその瞬間、豊かな香りがテーブルいっぱいに広がった。写真③はイノシシやシカ  
のハムなどのジビエ料理で有名なレストラ  
ンL'Oste del Re。店頭のイノシシの頭  
(写真左の壁)が目印。

私はビックリ。オルヴィエートは何と世界遺産に登録されていないではないか。なぜなのだろうかとの疑問。確証はないが、「スローシティの街づくり」のコンセプトを受けて、世界遺産への登録にはこだわっていないのではないだろうか。

(注2) スローシティ：イタリアなどヨーロッパを中心に30カ国278都市が加盟している国際的なネットワーク

## オリビエートの建物と町並み

### ① 大聖堂（ドウオーモ）

オルヴィエートで最大の観光名所は町の中央に建つロマネスク様式の宝石とも称される大聖堂。17世紀完成で、この町のシンボル。かつてのローマ教皇が300年かけて造った大聖堂は、他では見ない壁面と柱は黒と白い石が交互に生まれ柱頭は優雅な彫刻、その上を半円アーチが連続している。祭壇の正面はキリストの磔刑図が飾られ、背後のステンドグラスが美しい。天井は梁がむき出しのバジリカ様式。ファザードは太陽の光にあたるとキラキラと黄金に美しく輝く。壮大で3つの尖塔を備えたイタリア・ゴシック建築の最高峰、イタリアで最も美しい大聖堂とも言われている。(写真④)

### ② 中世の町並み

露地が複雑に張り巡らす町オルヴィエートは、大聖堂とモーロの塔をランドマークと



写真②



写真③



写真④



写真⑤

すると歩きやすい。大聖堂から北にモーロの塔があり、その下は東西にはしる目抜き通のカプール通りである。この境界がレストランやお土産屋で最も賑わっている(写真⑤)。

### ③ 迷宮都市オルヴィエート

オルヴィエートの路地は大小が組み合わせられ、更にゲート状に建物を通り抜けた中庭を通ったりしている。(写真⑥)。また建物はどこも連続している。路地の上を見上げると、いたる所で向かい合う建物を補強するようにアーチ状の飛び梁で結ばれている。これだけ複雑に入り組んだオリビエートの路地網は実に楽しく、町歩きの最大の醍醐味である。



### ④ 夜の町並み

夜になると町全体がオレンジ色の柔らかい光でライトアップされ、昼とは一変する。違った雰囲気ですべて美しい街並みが味わえる。写真⑦は夕食をしたエキゾチックなレストラン「ラ・パロンバ」。路地の左はテラス席で、右が店の入り口。オルヴィエート内のホテルに宿泊してこの人気のお店で夕食、そして美しくライトアップされた中世の街並みを散策できたことは、今回観光の最大の思い出である。



### ○全国企画

研究集会、セミナー等全国常幹で検討中です。計画が固まったらご案内します。

### ○支部幹事会＋交流会

毎月第2木曜日定例で行います。どなたでも参加できます。直前に支部会員MLに ZOOM 会議招待の URL を送ります。クリックして参加してください。

### ○WEB ちば塾

幹事の持ち回りで原則隔月第1金曜日に開催することにしてあります。幹事会にて検討中。

### ○千葉建築・街並探訪

年2回程度(候補地:東金、市川、行徳、三里塚など)→コロナ騒ぎも終焉したことですし再開していきます。企画立ててご案内します。

以上お問い合わせ

#### 斎藤義忠さん追悼

新建ちば292号で紹介した斎藤義忠さんが、2月7日お亡くなりになりました。享年89歳でした。丸忠工務店の棟梁として私や他の会員の仕事をいくつも担ってきましたが、近年は体調を崩して自宅にて静養しておられました。それでも私の紹介記事を読んでとても喜んでいただけたことです。私と仕事の話をしたいなあといていたそうです。ありがたいことです。それが急にこんなことになってしまい言葉もありません。ご冥福をお祈りします。

加瀬澤



#### 事務局だより

大竹さん、鎌田さん、長房さんに続いての斎藤さんの訃報で堪えていますが、気を取り直して引き続き機関誌の定期発行をしております。どうぞよろしく。(加瀬澤)

新建千葉支部事務局：株式会社 ゆま空間設計

TEL:043-253-8801 FAX:043-253-8806

千葉市若葉区みつわ台5-4-14

E-mail: office@yumaku-kan.co.jp

新建千葉支部ホームページ : <http://www5e.biglobe.ne.jp/~shinken/chiba/>

発行: 千葉支部幹事会  
編集: 千葉支部幹事会  
編集ワーク: 中安博司

編集後記: 新たな年が始まりました。私的な事情で機関紙の発行が遅れ、合併号になった事、お詫び申し上げます。今年も活動へのご協力よろしくお願ひいたします。(中安)